

## 令和元年度第2回福島県後期高齢者医療懇談会議事概要

日 時 令和2年1月31日（金） 午後1時30分～午後2時50分

場 所 福島県自治会館 2階 「特別会議室」

出席者 別紙出席者名簿のとおり

### 議事要旨

- 1 開会
- 2 局長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 5 議事

### 議事概要

事務局より議題について説明を行い、その後、委員から意見等を聴取した。委員の主な意見等は以下のとおり。

#### ○ 令和2・3年度の保険料率（案）について

- ・ 県の財政化安定基金というのは剰余金なのか。それとも財源は県で出すものなのか。
- ・ 先日新聞報道で、全国の保険料率が出ていたが、福島は全国的に見て低い方でよかったか。

（事務局）

- ・ 国費や県費、保険料等を県で基金として積み立ててあるが、基本的には保険料の収納が思ったより伸びなかった時の不足分や、医療給付が伸びた場合の不足時に活用するものであるが、基金の特例として保険料の急激な上昇がある場合に活用できるとなっている。
- ・ 福島広域は全国的には低い方の部類に入る。

#### ○ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について

- ・ 実施時期が未定な3自治体に対して、広域連合の方で実施に向けての情報提供等のサポートを考えているか。
- ・ 以前の説明で令和2年度開始自治体数は見込みとして10という話があったが、今回、実施予定時期が令和2年度の自治体が22市町村、令和3年度は20市町村という数字が出ているが、この数字は多いと考えているのか。また、令和2年度実施予定の22の市町村の傾向として大きい自治体が多く、令和6年度実施予定は小さい自治体が多い等の傾向はあるか。

（事務局）

- ・ 随時、情報提供をする等サポートを行っていく予定である。
- ・ 11月頃の時点では、5月に法が施行され、10月に概要が説明されて、来年度急にやるというの

は大変であることから、10自治体程度を見込んだが結果的に22の市町村で実施予定という見込みとなり、予想を上回った。市町村の規模については、特に傾向は見られなかった。

#### ○ 第三次広域計画の一部改定について

- ・パブリックコメントの結果はどうであったか。

(事務局)

- ・パブリックコメントを実施したが、質問、意見等1件もなかった。

#### ○ 第2期保健事業実施計画に基づく令和元年度保健事業の仮評価について

- ・健診の受診率が26%というのは低いという気がする。団体の活動の中で、会員に対して健康診断の受診や、その結果の把握について、本人に確認するよう話をしているので、受診勧奨のチラシを貰えれば活用することは可能である。
- ・健診を受診しない被保険者の気持ちとしては、普段から1月に1回かかりつけ医で受診し、ある程度の検査については数カ月に1回程度受けているので、更に上乗せして健診を受けることは「めんどくさい」と考えている方が多いのではないかと。
- ・内科といっても健診でみる項目が全て網羅されているとは限らないので、かかりつけ医の有無にかかわらず、基本は年に1回の健診の受診は推進するべきである。
- ・本来、重要視すべきは健診を受けた後であり、健診を受けるというのはとっかかりである。健診を受けて終わりではなく、その先の健診で問題が出た人については保健指導をして状態を良くする、状態を維持するということが大切ではないか。
- ・適正受診について、1医療機関に頻回している場合と複数の医療機関に頻回している場合があり、前者については整形の分野の医療の頻回であるのではないかと分かるが、後者のように横に行った時は、医療機関ではわからず、患者さんが話をしてくれないとわからないため、保険者が一定回数以上受診している人のデータを医療機関に提供するというのはどうか。ただし、かかりつけ医が決まっていない人の場合、情報の提供先が膨大になる可能性があることから、モデル的な実施を検討されたい。
- ・低栄養・過体重については、適正体重が良く、太りすぎも痩せすぎも良くないので、保健指導でしっかり食の重要性を伝えることが大切ではないか。

(事務局)

- ・関係団体に対し、3月頃に健診の受診勧奨について依頼を予定している。
- ・介護予防との一体化の実施の中で、事業を受託した市町村に限るが関係各機関との情報の共有が可能となる。市町村で関係機関等との連絡会議等を開催し、情報提供をしてもらうようになる。
- ・来年度は、BMI 13.0以上の方を対象に健康調査を実施し、希望者に対して栄養指導を実施予定としている。

○ 令和2年度後期高齢者口腔機能低下予防事業（案）について

- ・ 75歳の歯科健診が3年を経過して低調となっているが、この健診では口腔機能の低下もみているので、そういったところを強く打ち出し、受診率の上昇に向けた啓発を進めてはどうか。
- ・ この事業は、歯科医院ではなく、家庭訪問や通いの場に先生方が出て行って対応するというのが魅力であると感じた。

（事務局）

- ・ 意見を参考に、事業内容を検討していく。